

天然無垢材の特性及び留意事項

天然木は、成長過程において生節、死節、流れ節などが生じ、フローリングの表面に現れる木目や色合いは同じ樹種であっても1本1本全く別であり、同じ表情は存在しません。

また、季節の移り変わりに伴う部屋の空間環境に合わせ、無垢材本来の動きがあります。商品保管及び施工状況、メンテナンス等にも影響を受けますので、無垢材の特性をご理解の上、ご配慮をお願い致します。

※万が一納入した商品に品質上の問題があったり、使用場所と商品の特性が合わない場合は必ず**施工前**にご連絡下さい。状況確認した上で対応をさせていただきます。

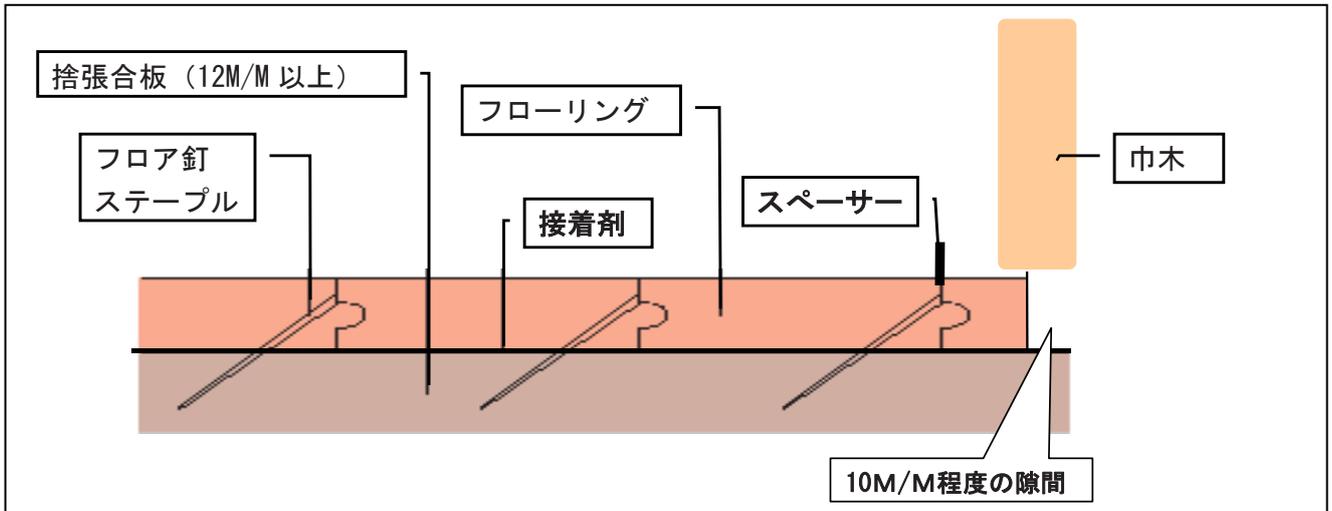
※無垢材は、年間を通じて湿気の吸湿により伸び縮みします。

冬場には乾燥し目地が開き、夏場には湿気で伸びて目地が詰まります。

ご使用に支障の無い程度の反りや干割れ、色の変化などの経年変化が発生する場合がございます。

フローリングの推奨工法 下張り(捨張り工法)

※ 施工図



重要 ご注意下さい。重大なクレームになる場合がございます。

※フリーフロア(置き床)等で下地合板がしっかりと固定されていない場合は、当該フローリングが無垢本来の湿気吸湿による動きに対し追従出来ずに、スペーサーでの隙間クリアランスの如何に関わらず合板が浮き上がり、大きな膨らみと成る場合がございます。無垢材に適した工法・施工を採用されていない場合のクレームは一切お受けする事ができません。

※部屋の隅部分、サッシ、敷居には当該フローリングを突き付けず、必ず隙間を確保し施工して下さい。

※以下の施工方法は一般的な施工方法です。使用面積・用途などによって異なる場合がありますので、施工方法は設計事務所とご相談ください。

1. 施工前の保管

- 当該フローリングの保管は、室内にて雨水等で濡れない場所で保管して下さい。
- 歪みを防ぐ為、水平な場所で保管して下さい。
- 施工前には当該フローリングを開梱して、現場の湿度に馴染ませてから施工して下さい。

2. 施工 下地 12mm以上の耐水合板 (JAS認定F☆☆☆☆) を捨張り

- 床下からの湿気や下地の凸凹(不陸)の無い様、対策を講じて下さい。(下地条件:含水率8%以下)
- 根太材は45 mm× 45mm以上の KD材、反り曲がりの無い物をご使用下さい。
- 捨張り合板の継目と同じ位置にならない様に千鳥張りして下さい。又、合板の継目は3 mm~5 mm程度の隙間を空けて、根太ボンドと釘を併用し施工して下さい。
- ピアノや冷蔵庫、薪ストーブ等の重量物を置く場所は、根太や束、大引きを増やす等の対策を講じて下さい。

3. 施工 推奨接着剤・塗布方法/推奨の釘・打ち込み方法

- 接着剤はウレタン系接着剤等のF☆☆☆☆取得フローリング施工用を接着剤メーカーの使用説明書に従っ

てご使用下さい。必要に応じて、エポキシ樹脂系2液タイプをご使用下さい。

(推奨品:コニシポンドE350R・オオシカ EP-72 等)

●接着剤を塗布する場合、下地合板にクシ目ゴテ等を使い、しっかりと目が立つように万遍なく塗布して下さい。その際に実(サネ)部には接着剤が入らない様に塗布して下さい。実(サネ)部に接着剤が入りますと床鳴りの原因になる場合がございます。釘は保持力のある接着剤付きステーブルやスクリー釘をご使用下さい。

●釘は300mmピッチで雄実(オザネ)部に斜め45度の角度で打ち込みます。ステーブル・スクリー釘は捨張り合板の下の根太まで届く様施工して下さい。釘の頭が出てしまった場合は、ポンチ等で叩いて打ち込んで下さい。

●釘・ステーブル打ちの際は下地捨張り合板の継目に掛からない様にして下さい。継目に釘・ステーブルが入りますと床鳴りの原因になる場合がございます。

4. 施工 無垢材施工の注意点

●当該フローリング施工前には捨張り合板上を掃除しゴミ・埃を取り除いて下さい。又、下地の捨張り合板が濡れている場合は施工せず、十分な乾燥が確認出来るまで施工しないで下さい。

●無垢材は色にバラつきが有りますので、施工前に仮並べを行い、色彩バランスを確認した上で施工を行って下さい。

●当該フローリングは「3.施工」に基づき推奨接着剤と推奨釘を併用して施工して下さい。

●当該フローリングは無垢材となり吸湿による伸び縮みがありますので、材と材の間に付属のスペーサーにてクリアランスを設ける必要が有ります。又、当該フローリングとの接合部の壁・サッシ・敷居へは突き付けず10mm程度の隙間を空けて施工して下さい。敷居に差し込めない場合は、当該フローリングを差し込めるよう別途加工を敷居に施す必要が有ります。

●フローリングの接合部は乾燥している冬場には、夏場湿気での伸びを考慮したクリアランスを、夏場には冬場乾燥での縮みを考慮したクリアランスを設けて施工して下さい。但しエンドマッチ部についてはクリアランスを設ける必要はございません。

スペーサーを使用すると施工しやすくなります。参考;300mm程度ピッチでスペーサーを挟み込み、雄実(オザネ)部に当て木をして叩き込み「3.施工」に沿った糊付け・釘打ちをして施工して下さい。その際、冬場は0.3 mmスペーサー×2枚の0.6 mm程度、夏場は0.3 mmスペーサー×1枚の0.3mm程度が目安です。スペーサーを使用しでの施工後に直ちにスペーサーを外して下さい。時間が経つと目が詰まりスペーサーが抜け辛くなる場合があります。)

5. 施工後 養生

●施工後は表面保護の為、直ちに床面を掃除し通気性のある養生シートを全面に敷いて、養生テープで止めて下さい。その際、小石・ゴミ等が残っていると表面の傷の原因となります。又、養生テープは当該フローリングに直接貼らないで下さい。塗装の剥がれの原因となります。

●養生中、床面に塗料・水等の液体をこぼした場合は、速やかに拭き取り、当該フローリングに付着していない事を確認し、付着があった場合速やかに拭き取って下さい。

無垢(天然木)フローリングのご使用とメンテナンス

無垢フローリングの特性について

- 無垢フローリングは床暖房使用中に水分を放出し、収縮することで隙間が生じることがあります。夏の多湿の時期には吸湿して膨張しある程度目立たなくなります。
- 無垢フローリングは温湿度変化に伴う伸縮により小さな床鳴が発生する場合があります。

1.使用上の注意点

- 人の出入りが多い場所では、砂ホコリによって塗装面に傷つくことがあり、このキズにより、塗装面が取れやすくなる場合があります。必ずマット等をご使用し、砂ホコリが入らないようにして下さい。砂ホコリが入った場合は、速やかに掃除機などでゴミやホコリを除去した後、可能な限り乾いたやわらかい布やモップでの乾拭きをお願いします。汚れがとりにくい場合は強く絞った雑巾でふき取って下さい。
- 無垢フローリングは水分を嫌います。水をこぼしたり、雨の日などで水がかかった場合は直ちに乾いた布で乾拭きして下さい。水に濡れたまま放置することでシミや変色だけでなく、かびの発生やフローリングの膨張による膨れや反りの原因となります。
- キャスター付の台車や椅子・テーブル等は表面材を損傷する恐れがありますので引き摺りなどによって傷を付けないように充分気をつけて下さい。また、椅子やテーブルの脚部には市販のフェルト製クッション材を貼付けることで、キズやへこみ防止に役立ちます。
- 暖房器具の熱風や直射日光は直接当たらないようにして下さい。無垢フローリングは直射日光の紫外線や照明器具等により変色することがあります。太陽光の直射はカーテンやブラインドで遮って下さい。置敷カーペットによっても色違いが目立つようになる場合があります。
- ホットカーペットの使用によって、熱がこもり、カーペットの部分がその周囲より大きな縮みを引き起こす場合があります。

2.日常のお手入れ

- 日ごろのお手入れは掃除機で清掃後、乾いたやわらかい布やモップでの乾拭きで充分です。水拭きはお避け下さい。汚れがとりにくい場合は強く絞った雑巾でふき取って下さい。